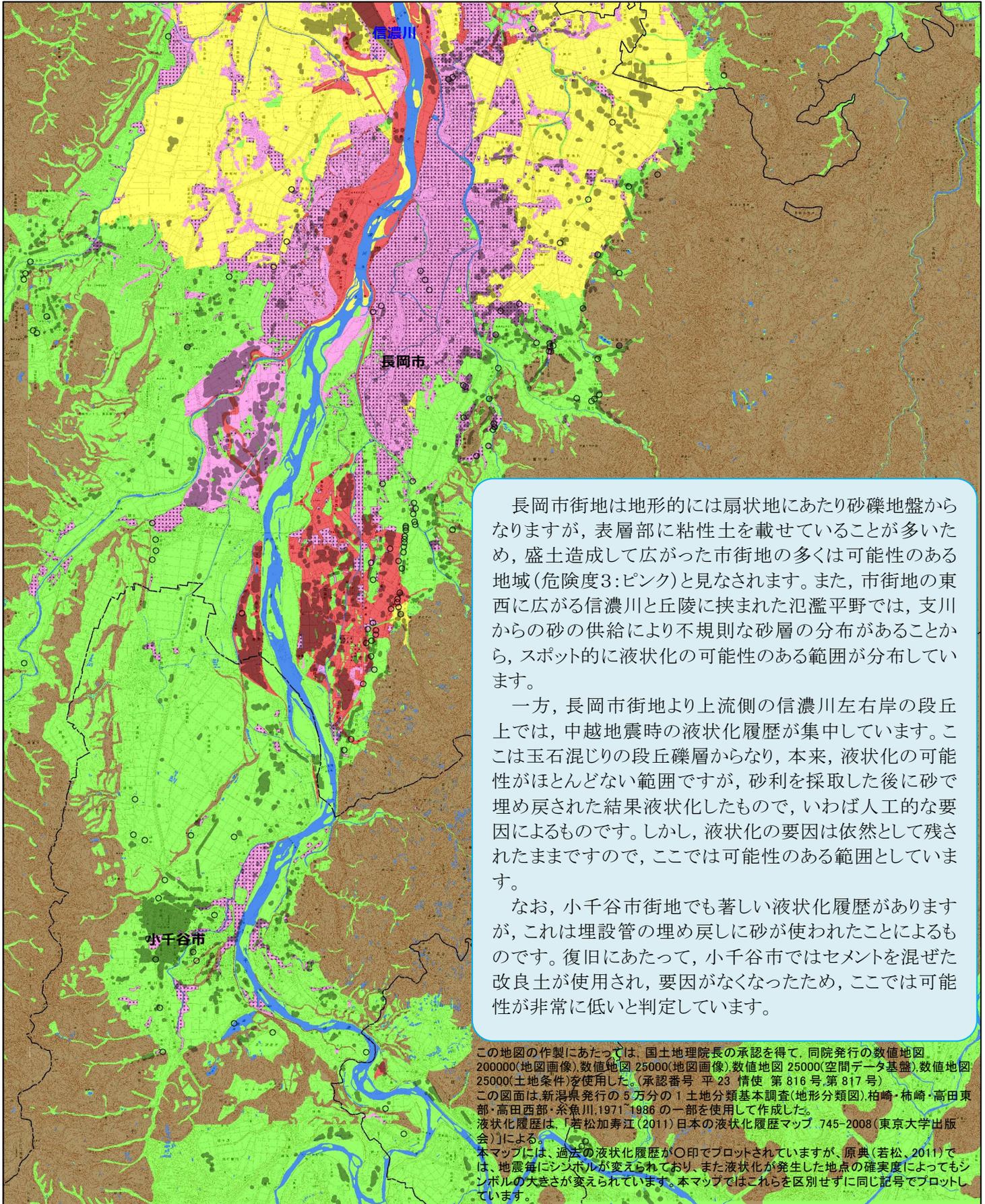
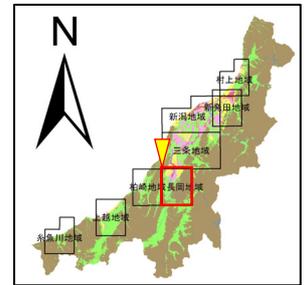
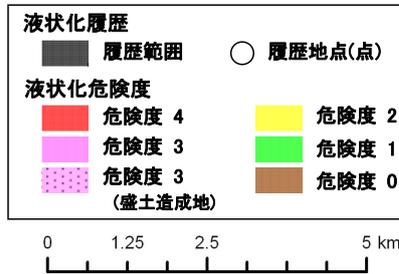


長岡地域



長岡市街地は地形的には扇状地にあたり砂礫地盤からなりますが、表層部に粘性土を載せていることが多いため、盛土造成して広がった市街地の多くは可能性のある地域(危険度3:ピンク)と見なされます。また、市街地の東西に広がる信濃川と丘陵に挟まれた氾濫平野では、支川からの砂の供給により不規則な砂層の分布があることから、スポット的に液状化の可能性のある範囲が分布しています。

一方、長岡市街地より上流側の信濃川左右岸の段丘上では、中越地震時の液状化履歴が集中しています。ここは玉石混じりの段丘礫層からなり、本来、液状化の可能性がほとんどない範囲ですが、砂利を採取した後に砂で埋め戻された結果液状化したもので、いわば人工的な要因によるものです。しかし、液状化の要因は依然として残されたままです。ここでは可能性のある範囲としています。

なお、小千谷市街地でも著しい液状化履歴がありますが、これは埋設管の埋め戻しに砂が使われたことによるものです。復旧にあたって、小千谷市ではセメントを混ぜた改良土が使用され、要因がなくなったため、ここでは可能性が非常に低いと判定しています。

この地図の作製にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 200000(地図画像)、数値地図 25000(地図画像)、数値地図 25000(空間データ基盤)、数値地図 25000(土地条件)を使用した。(承認番号 平 23 情使 第 816 号 第 817 号)

この図面は新潟県発行の 5 万分の 1 土地分類基本調査(地形分類図)、柏崎・柿崎・高田東部・高田西部・糸魚川、1971・1986 の一部を使用して作成した。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」による。

本マップには、過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では、地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。